

令和4年度 地域自主活動グループ活動報告「板橋区の蝶を調査する会」

◆メンバー: 20名

◆活動状況

回数	開催日	時間	参加者数	回数	開催日	時間	参加者数
1	3月26日(土)	10:00~12:00	7	5	7月2日(土)	9:00~12:00	12
2	4月9日(土)	9:30~13:00	13	6	9月4日(日)	9:00~13:00	16
	7			10月8日(土)	9:30~13:30	12	
3	5月22日(日)	9:00~12:00	16	8	11月5日(土)	9:30~12:30	9
4	6月4日(土)	9:30~12:00	14	9	12月3日(土)	10:00~13:00	15

3月~12月の毎月1回蝶の観察会を開催しました。今年は赤塚公園、赤塚城址、赤塚植物園・万葉薬用園、荒川河川敷、光が丘公園、石神井川沿いを観察しました。蝶の成虫の他生態(卵、幼虫、蛹)の観察も行いました。なお、今年度は、エコポリスセンターから「蝶の観察会」の委託を受け、5月と9月に赤塚城址周辺の観察会を実施しました。

◆1年間の観察結果

毎月の観察会の他にメンバーが個人的に観察を行っています。2022年は板橋区内で61回の定点観察を行い(定例観察日以外にも会員個人が観察した観察データを加算しています)49種類の蝶を観察した。2022年度の観察結果の概要は次のとおりです。図(2022年蝶の種観察回数)もご覧下さい。

(注)年間に観察した蝶の種類別合計観察回数です。当日の観察会でアゲハを3回観察しても、観察種類としては「1」とカウントします。

(1)観察状況

○昨年の観察と同様にヤマトシジミ、モンシロチョウ、アゲハ、キタキチョウ、が観察回数(注)の多い種類でした。

○4月に赤塚城址でクロノマチョウ・赤塚公園沖山地区でヒオドシチョウを確認しました。

○4月に荒川陸上競技場上流側で、ギンイチモンジセセリを複数頭確認しました。

○5月に荒川笹目橋上流でアサマイチモンジの成虫と卵を確認しました。

○5月に荒川笹目橋上流でダイミョウセセリの成虫を確認しました。

○5月に光が丘公園で昨年に引き続きホシミスジを確認しました。

○赤塚城址・光が丘公園でウラナミアカシジミは確認出来ませんでした。

○6月に赤塚農業園でミドリヒョウモンを確認しました。

○6月に荒川ワンド周辺でウラナミシジミを確認しました。ウラナミシジミは、暖地方から移動する蝶で、板橋区ではこれまで秋頃から見られていました。

○8月に上板橋体育館裏でオオチャバネセセリを確認しました。

○8月に高島平警察前でホシミスジを確認しました

○8月に都立城北中央公園でギンイチモンジセセリを確認しました。

○8月に荒川笹目橋上流付近でミヤマチャバネセセリを確認しました。

(2) 区外観察

- ① 信州方面観察(小諸市周辺・湯の丸高原周辺)
- ② オオヒカゲ観察(長野県諏訪方面)
- ③ キベリタテハ観察(湯の丸高原周辺)

◆ 活動風景(板橋区観察回数上位 4 種類)

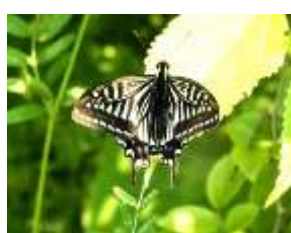
(板橋区観察回数上位 4 種類)



ヤマトシジミ



モンシロチョウ



アゲハ



キタキチョウ

(偶産種・希少種等)



アサマイチモンジ



ホシミスジ



ヒオドシチョウ



ミドリヒョウモン



ギンイチモンジセセリ



ダイミョウセセリ



ミヤマチャバネセセリ



昼食忘年会

◆ その他(他の観察員に向けて一言、感想など)

板橋区の蝶の観察を始めてから 17 年が過ぎました。その間に 56 種類の蝶を観察しました(2021 年に 2 種類の増)。板橋区は緑が多く、又、荒川河川敷が存在することから観察できる蝶の種類が豊かです。温暖化の影響により観察出来る蝶の種類が増えています。一方、河川敷の改修工事やグランド化、台風による増水により蝶の棲息する環境が変化し、観察できる蝶の数が減少することがあります。3 年前の荒川の大増水による影響

と思われるミヤマチャバネセセリ・ギンイモンジセセリの減少はやっと回復の気配がうかがえますが、確認は極めてわずかです。一方、赤塚城址周辺に生息していたウラナミアカシジミは今年も観察出来ませんでした。アカシジミやミズイロオナガシジミの観察回数も減少しています。ここ数年にわたり赤塚城址周辺のクヌギ・コナラの木が伐採されましたので、観察回数の減少につながっているようにも感じます。また、赤塚城址周辺で観察されていたダイミョウセセリはほとんど観察できなくなりました。食草であるヤマノイモが公園全体で一斉草刈りのためになくなり、同時にダイミョウセセリの絶滅危機に直面していると思われます。これからも蝶の観察と同時に食草の分布等蝶の棲息状況を調べ、多くの方に板橋区の蝶やとりまく環境について知って頂くお手伝いをしたいと考えております。

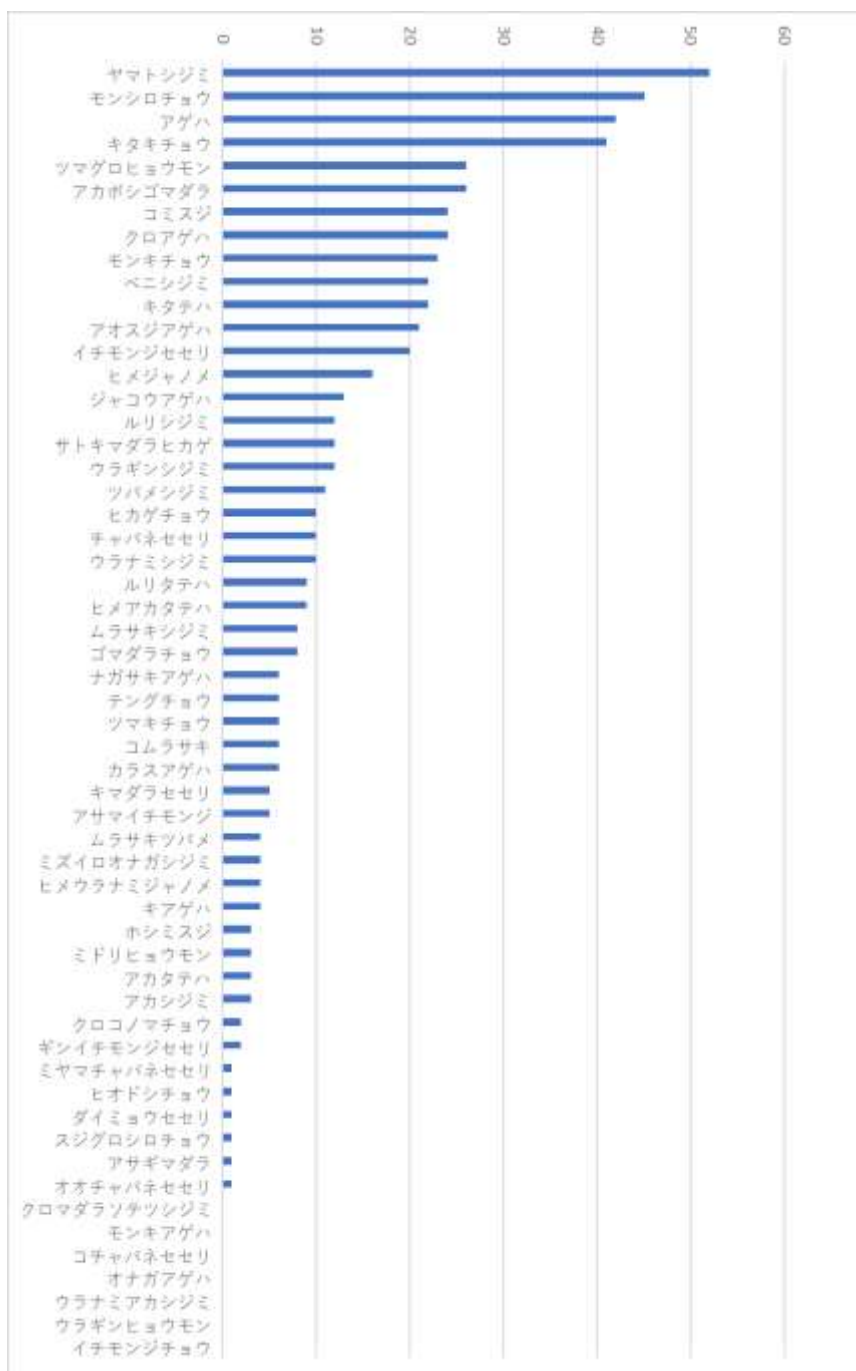


図 3-1 2022 年蝶の確認回数(確認数の多い順)